東京男声合唱フェスティバル

目　次

「第１３回東京男声合唱フェスティバル」2013 年 11 月 9 日（土）..... 1
「第１２回東京男声合唱フェスティバル」2012 年 11 月 10 日（土）..... 3
「第１１回東京男声合唱フェスティバル」2011 年 11 月 13 日（日）..... 4
「第１０回東京男声合唱フェスティバル」2010 年 11 月 23 日（火、祝）..... 5
「第９回東京男声合唱フェスティバル」2009 年 11 月 23 日（月、祝）..... 6
「第８回東京男声合唱フェスティバル」2008 年 11 月 23 日（日、祝）..... 8
「第７回東京男声合唱フェスティバル」2007 年 11 月 23 日（金、祝）..... 9
「第６回東京男声合唱フェスティバル」2006 年 11 月 23 日（木、祝）..... 10

「第１３回東京男声合唱フェスティバル」2013 年 11 月 9 日（土）

於 浜離宮朝日ホール　（主催；　東京都合唱連盟・朝日新聞社）
参加全 56 団体中 6 番目　(11 時 16 分頃から 7 分間)

参加者：

大阪男声合唱団東京支部
C ：甲和
T1 ： 村田・丸谷・高木・上田・松本・内田
T2 ： 冨田・江守・本間・岡部
B1 ： 淵山・藤山・福井・藤原
B2 ： 待山・木戸・山邊・大城・高島・佐々木・大江　　計 22 名

大阪外国語大学グリークラブ OB 合唱団
T1 ： 五十嵐・予田・田中
T2 ： 若林・赤城・竹尾
B1 ： 新出・西川・岸本・浜崎
B2 ： 大井・真鍋・樽井　　計 13 名　　合計 35 名

演奏曲目：

1. 男声合唱組曲「富士山」より II.作品第肆
2. 男声合唱組曲「富士山」より V.作品第貳拾壹

報告：

2006 年の第 6 回男声合唱フェスティバル以来、大阪男声東京支部の単独行事として参加を続けてきた東京男声合唱フェスティバルですが、今回は大阪外国語大学グリークラブ OB 合唱団の東京メンバーと

の合同演奏という形で参加することに致しました。

来年の 6 月に大阪で行われる外大グリーOB 合唱団の演奏会の「富士山」のステージに、大阪男声が賛助出演すると決まったことから、東京でも何らかの形で外大 OB との連携を行いたいと、今年の 6 月から両団の運営メンバーの共同検討をおこなってきた結果が、今回の東京男声合唱フェスティバルでの「富士山」合同演奏という形に結実しました。

「富士山」の「作品第肆」と「作品第貳拾壹」の選曲の組み合わせは、奇しくも初めて参加した第 6 回と同じ演奏曲目となりましたが、第 6 回の参加人数 19 名に比べ、今回は外大との合同で 35 名というほぼ倍の人数でのステージを持つことが出来ました。

また、多田武彦の「富士山」は、今年 1 月の阪大男声 60 回定演、7 月の大阪男声 13 回定演で取り上げたことから、東京支部でも昨年の 9 月以来、1 年以上にわたり比較的じっくりと取り組んできており、さらに大阪男声の正規メンバーに限らず広く阪大男声 OB に参加を呼びかけての演奏を経験してきたこともあって、今回は東京支部正規メンバーに加えて多くの特別賛助メンバーの参加を得ることができました。

当初は、正規メンバー17 名、賛助 8 名の 25 名が大阪男声として参加する予定でしたが、さまざまな理由によって 3 名のメンバーが参加しえなかったため最終的には、正規メンバー15 名、賛助 7 名の計 22 名の参加となりました。

外大 OB との合同演奏ということで 8 月末から定例練習とは別に外大 OB と 4 回の合同練習を行い 2 つの合唱団の響きを合わせることにつとめるかたわら、毎回の練習後の懇親会にてメンタル面でのハーモニーを熟成させることによって、単なる合唱団の寄せ集めの演奏以上のものを目指してきました。

残念ながらくじ運が悪くて午前中の早い目の出演順となったため、朝 9 時という早い時間から上野で直前の練習を行ったのちに会場入りし、演奏開始の約 30 分前からは、更衣・リハ・待機・本番演奏を 7 分刻みで、まるでベルトコンベアの上に乗ったかのように慌ただしくこなして、あっという間に記念すべき合同ステージが終わりました。

慌ただしいスケジュールに煽られたためか、少々テンポは速い目になってしまったものの、限られた合同練習回数ではあったものの、大阪男声メンバーはこれまでにかなり歌い込んで来た曲目でもあり、また合同練習後のメンタルハーモニーの熟成が効を奏したのか、34 名という今までに無い大人数での演奏ということもあって、ダイナミズム豊かなこれぞ大人の男声合唱という響きをが心地よくホールに鳴り響き、メンバーそれぞれが達成感を感じることのできる演奏を行なう事ができました。

男声合唱フェスティバルでは、出演団体互選による人気投票で次回の招待演奏団体を決めるというシステムが採用されていますが、昨年まではこの人気投票で 1 票も獲得出来ていませんでしたが、今回は 2 票を獲得することができました。そのうちの 1 票は外大 OB の何名かが別途で出演していたた他の合唱団からのいわば縁故投票に近いものであったとの噂もありますが、観客の拍手や客席で聴いていた東京支部のピアニストや東京支部メンバーの感想を聞いても、観客にもかなりのアピールが出来た良い演奏だったのではと感じています。

（報告者：甲和　伸樹）

「第１２回東京男声合唱フェスティバル」2012 年 11 月 10 日（土）

於 浜離宮朝日ホール　（主催；　東京都合唱連盟・朝日新聞社）

参加全 54 団体中 47 番目　(17 時 50 分頃から 7 分間)

参加者：

指揮：甲和伸樹、ピアノ：坂田 百合子

T1 ： 大野、丸谷、高木、上田、村田、松本、内田

T2 ： 北村、冨田、江守、本間、岡部

B1 ： 渕山、藤山、奥村、宇野、藤原、堀(正)

B2 ： 待山、奥戸、木戸、山邊、佐々木、大江　　以上 25 名

演奏曲目：

1. 男声合唱組曲『富士山』より 作品第壱
2. 『マザーグースのうた』より ゴータムむらの

報告：

一昨年までは毎年 11 月 23 日の勤労感謝の日に開催されてきた東京男声合唱フェスティバルは、昨年より日程が流動的となり、今年は 11 月 10 日の土曜日の開催となりました。

7 年連続 7 回目の出演となる今年は、1 月の現役の 60 回定演合同演奏曲の富士山より 1 曲と、7 月定演でとりあげる「マザーグースのうた」の 1 曲を取り上げることに致しました。

今年になって、東京支部にはあらたに丸谷隆一さん(65 年 T1)、高木保さん(67 年 T1)、上田勝巳さん(68 年 T1)、本間真人さん(76 年 T2)、池田直昭さん(79 年 B1)と 5 名もの方々にレギュラーメンバーとなっていただき、仕事都合で参加できなかった池田さん以外の 4 名が男フェス初参加となりました。また現役の 60 回定演の合同曲にも参加予定の藤原裕士さん(77 年 B1)にも男フェスのステージにも初参加いただました。

さらに毎年の男フェスのステージをお手伝いいただいている松本さん(T1)、内田さん(T1)、岡部さん(T2)、堀(正)さん(B1)、佐々木さん(B2)、大江さん(B2)に今回も出演いただいたことにより、T1:7 名、T2:5 名、B1:6 名、B2:6 名の昨年と同数の 24 名の合唱となりました。本来なら昨年を超える 27 名での参加を目指していたものの、体調不良や仕事都合などでご参加できなかった方々が 3 名おられたことはとても残念でした。(上記の年は入学年度(西暦))

今年は 1 月に現役の 60 周年定演出演を控えていることもあって、富士山のなかから一番仕上げるのに時間がかかるであろう「作品第壱」にあえて挑戦することとし、これにマザーグースの中から 2 分強で、聴き映えもするであろう「ゴータムむら」を併せて歌い、制限時間である 7 分間のステージにすることといたしました。

但し、「作品第壱」に関しては、演奏制限時間を勘案して大阪での練習よりもかなり早めのテンポ設定を行ないましが、それでも 2 曲計で 7 分を超える懸念が出てきたため、「ゴータムむら」に関してはピアノの間奏を 6 小節省いての演奏といたしました。

いつもよりも早い時期の土曜日開催ということで、練習の回数もかなり限られていましたが、今年の出演は夕方 6 時前といつもに比べると遅めの時間の出演であったことかっら、直前の練習時間もある程度たっぷりととることができ、わりと落ち着いてステージに望めたと感じています。

とはいえ、富士山に関しては、テンポを速めたとはいえ 4 分を超える長めのアカペラ合唱曲ということもあって、なかなか集中力を曲終わりまで保つことが難しかったのか、結果としてはピッチが少し下がってしまう残念な部分も発生しました。

それでも、総体的には出演者の平均年齢が約 63 歳で昨年よりも 1 歳若返り、50 代以下の占める割合も増えたためか、この平均年齢以上に若々しい声を響きの良いホールに鳴りわたらせることができたのでは無いかと考えています。

（報告者：甲和　伸樹）

「第１１回東京男声合唱フェスティバル」2011 年 11 月 13 日（日）

於浜離宮朝日ホール　(主催；　東京都合唱連盟・朝日新聞社)

参加全 53 団体中 31 番目　(15 時 36 分頃から 7 分間)

参加者：

C　：甲和

T1　：　関本、大野、村田、松本、内田

T2　：　仮谷川、北村、経澤、宇野、冨田、江守、岡部

B1　：　渕山、藤山、奥村、鈴木、堀(正)

B2　：　待山、奥戸、木戸、山邊、小早川、佐々木、大江　以上 25 名

演奏曲目：

1. 日本抒情歌曲集より「叱られて」

2. Muss i denn

指揮：甲和伸樹、ピアノ：坂田 百合子

報告：

例年は 11 月 23 日の勤労感謝の日に開催されてきた、東京男声合唱フェスティバルは、会場の都合にて、いつもよりも 10 日早い 13 日の日曜日の開催となりました。

東京支部にとって今年で 6 年連続 6 回目の出演となりますが、今年は、来年の定演予定曲の「叱られて」と、阪大男声のレパートリー中のレパートリーである、Muss i denn を取り上げることに致しました。

今年は、いつものメンバーに加えて、8 月よりレギュラーメンバーとなられた江守さん(T2)、冨田さんからのお誘いによって参加いただいた小早川さん(B2)、昨年の男フェスへの観客としての来場により偶然の再開を果たし今回参加された松本さん(T1)、毎年の東京演奏会のステージマネージャとしてお手伝いいただいている佐々木さん (B2)の 4 名に初参加をいただき、今までにも当ステージをお手伝いいただいたことのある、内田さん(T1)、岡部さん(T2)、堀(正)さん(B1)、大江さん(B2)に今回も出演いただいたことにより、T1:5 名、T2:7 名、B1:5 名、B2:7 名の 24 名の合唱となり、昨年の 23 名を 1 名上回る、過去最高の出演人数での参加となりました。

開催日が 10 日早まったことで、例年にも増して限られた練習時間の中、できるかぎり多くの関東圏の OB にご参加いただくことも狙いの一つとしておりましたので、選曲もメロディーは誰もが耳にしたことがある日本歌曲と、どの年代の OB でも歌えるであろう、Muss i denn を選曲したことが、今回のメンバー増に寄与したと思われます。

出演順については、昨年の抽選会でのくじ運が良かったことの縁起をかつぎ、今年も抽選会には冨田さんに出席いただき、昨年とほぼ同時間帯での出演となりました。今年は日曜日の開催ということで、前日の土曜日と当日の直前と集中的に練習を行うことができたことが功を奏したのか、かなり良いコンディションでステージに臨むことができました。

「叱られて」については、当曲の独特にテンションのかかったハーモニーが、音響の良い浜離宮朝日ホールにそれなりにきれいに響いていたように思えました。Muss i denn に関しては、世代によっては現役時代に千回以上も歌ってきたがゆえに、歌いこまれていると同時に歌詞の発音、リズムなどがかなり風化してきておりましたが、先月以来の集中練習にて、かなり軽やかな演奏に持っていくことが出来ましたが、2 番でパート間のテンポのズレが少々目立ったのが残念したが、曲が終わると同時に拍手が鳴るなど、それなりに観客へもアピールできる演奏ができたのではと感じています。

（報告者：甲和　伸樹）

「第１０回東京男声合唱フェスティバル」2010 年 11 月 23 日（火、祝）

於浜離宮朝日ホール　(主催；　東京都合唱連盟・朝日新聞社)

参加全 58 団体中 30 番目　(15 時 20 分頃から 7 分間)

参加者：

(C)甲和、

(T1)関本、大野、村田、花田、内田

(T2)仮谷川、北村、宇野、冨田、岡部

(B1)渕山、藤山、奥村、鈴木、堀(正)、清田

(B2)待山、服部、奥戸、木戸、山邊、大江、堀(良)　　以上 24 名

ピアノ　坂田さん　(譜めくり：横川さん)

演奏曲目：

フランスの詩による男声合唱曲集　「月下の一群」より、

2. 輪踊り、3. 人の云うことを信じるな

訳詞：堀口大學　作曲　：南 弘明

指揮：甲和伸樹　ピアノ：坂田百合子

報告：

「東京男声合唱フェスティバル」への参加も今年で 5 回目をむかえ、東京支部も 5 回出場の表彰を受け男声合唱のお祭りに相応しく純米酒を記念品としていただきました。

（添付の写真をご参照下さい）

今年は招待演奏団体を含めて全 58 団体での開催となり、朝 10 時開演、20 時 22 分終演予定という盛

大なフェスティバルとなりました。最近の男声合唱フェスティバルの傾向としては、ダブルカルテットなどの若手の少人数にてルネサンス音楽等を演奏するアンサンブルグループに人気が集まってきているようです。

東京支部は、来年の定演曲である、「月下の一群」の中の 2 曲を取り上げました。
参加メンバーは、いままでに合唱フェスティバルに参加いただいたことのある、花田さん(T1)、内田さん(T1)、岡部さん(T2)、堀(正)さん(B1)に加え、新たに清田さん(B1)、大江さん(B2)、堀(良)さん(B2)に参加いただき、最終的には T1：5 名、T2:5 名、B1:6 名、B2：7 名の 23 名と今までの最多人数での参加となりました。

新規参加の若手メンバーは、合唱は久しぶりの方が大半であったものの、阪大男声の第 32 回定期演奏会にて月下の一群のステージを経験したことのある世代に数多く参加いただきました。

出演順のくじ運も良く、出演順は中盤に当たる 15:20 からの出演ととなり、ほぼ満員の観客を前にしてステージに臨みました。例年、更衣から直前リハ、本番と慌しくベルトコンベアーに乗ったようなスケジュールや 7 分間という演奏時間制限での出演にて、毎年走り気味になることが多いため気をつけてはおりましたが、やはり少し早めのテンポでの演奏となりました。

しかしながら、日ごろの練習の成果か大きな破綻をきたすことなく集中した演奏が行なえ、客席の拍手の反応も良かったと感じています。録音を聞いても多くの若手メンバー(といっても 40 代後半が大半ですが) の参加によって、今までに比べてかなり若く張りのある響きでの演奏が行えたのではと考えています。

（報告者：甲和　伸樹）

「第９回東京男声合唱フェスティバル」2009 年 11 月 23 日（月、祝）

於浜離宮朝日ホール　(主催；東京都合唱連盟・朝日新聞社)
参加全 49 団体中 24 番目　(15 時 00 分頃から 7 分間)

参加者：(C)甲和、
(T1)大野、村田、花田、内田
(T2) 仮谷川、北村、宇野、冨田、岡部
(B1) 渕山、藤山、奥村、鈴木、堀
(B2) 待山、服部、奥戸、木戸　以上 19 名
ピアノ　坂田さん

演奏曲目：

男声合唱組曲「The Student Prince」より、
5. Serenade、6. Student March Song
作詞：Dorothy Donnelly 作曲：Sigmund Romberg 編曲：北村 協一
指揮：甲和伸樹　ピアノ：坂田百合子

報告：
「東京男声合唱フェスティバル」への参加も今年で 4 回目となり、東京支部単独の恒例行事として定着した感があります。今年は、全日本合唱コンクールとの日程が重なり、東京近辺からも全国大会出場の男声合唱団が何団体かあったこともあり、全 49 団体での開催となりました。

今年は、来年の定演曲より、「The Student Prince」の中の 2 曲を取り上げました。
参加メンバーは、今年より新たに参加いただいた、宇野さん(T2)、岡部さん(T2) や、例年合唱フェスティバルに参加いたいている花田さん(T1)、堀さん(B1)、さらにはわざわざ遠地から参加いただいた内田さん（T1)と、20 名を超える陣容を想定していたものの、残念ながら直前に 3 名の方々が多忙や体調を崩されたことによって参加を断念されたため、最終的には T1：4 名、T2:5 名、B1:5 名、B2：4 名の 18 名での参加となりました。
ピアノ伴奏は昨年末に正式に東京支部の常任ピアニストを引き受けていただいた坂田百合子さんに昨年のフェスティバルにひき続いてお願いをしました。

今年は出演順のくじ運も良く、15:00 からの演奏となったため、お昼過ぎに集まったのちに声慣らしを行っての会場入りとなりました。ミュージカルをベースにしたポピュラー楽曲の演奏ということもあり、今回はいつもの黒ずくめの礼服スタイルではなく、銘々自由にえらんだカラーのハイネックセーターのいでたちにてステージに臨み、かなり若々しい雰囲気にての演奏が出来たのではと思います。久々の午後の演奏ということで、客席もかなり埋まっておりましたが、演奏後の拍手の反応からは、それなりに観客にも曲の雰囲気を伝えることができたかと感じています。若々しさが過ぎて終曲のテンポがかなり走ってしまい、「行進曲」が「ジョギング」になりかけたのは、ご愛嬌としましょう。

今年は、時間的な折り合いからか、他団に所属する阪大男声 OB にお会いすることは、ほとんど出来ませんでした。例年参加されている「お江戸コラリアーず」は、今年は昨日が札幌での全日本コンクール出場ということで、本フェスティバルへは不参加でしたが、コンクールでは見事金賞を獲得したとのことで、阪大男声 OB の宇田文顕さんが札幌からの帰り道に本会場に報告に来られたところにお会いしました。藤川義弘さん、渡辺史信さんが所属されている「デュッセルドルフ日本男声」も例年通り参加されてましたので、出演されいたのではと思います。

例年なら男声合唱フェスティバルが終わると、他の定演曲の練習に取りかかるのが通常でしたが、今年は 12 月 12 日に学士会館にて開催される大阪大学の卒業生の集いにての演奏披露が待っていますので、今後来年の定演に向けての練習を短期間で精力的にこなしていかなくてはいけないと考えています。

（報告者：甲和　伸樹）

「第８回東京男声合唱フェスティバル」2008 年 11 月 23 日（日、祝）

於浜離宮朝日ホール （主催； 東京都合唱連盟・朝日新聞社）

参加全 56 団体中 6 番目 （11 時 26 分頃から 7 分間）

参加者： (C)甲和、

(T1) 関本、大野、村田、花田、

(T2) 仮谷川、北村、冨田、堀

(B1) 渕山、藤山、奥村、鈴木、

(B2) 待山、服部、奥戸、木戸 以上１７名

演奏曲目：

男声合唱組曲「水のいのち」より、1. 雨、２．水たまり

作詞：高野喜久雄 作曲：高田三郎

指揮：甲和伸樹 ピアノ：坂田百合子

報告：

今年で 3 回目の出場となった「東京男声合唱フェスティバル」ですが、参加団体が昨年よりは若干減ったものの中高校・大学の男声合唱団からシルバーコーラスまで全 56 団体のエントリーとなり延々10 時間にわたって男声合唱だけが演奏されるという盛況ぶりでした。

今年は、来年の定演曲より、「水のいのち」の中の 2 曲を取り上げました。昨年のわたしはカメレオン」に比べて譜面はかなり平易ですが、あまりにも有名で知られすぎた曲であるがゆえに、いかにして完成度を高めていくかが今回の大きな課題でした。

また、ピアノ伴奏付きの曲を東京単独で今回初めて演奏するにあたっては、2003 年の第 50 回記念定演の練習以来、東京メンバーの練習のお手伝いをしていただいている坂田百合子さんに、伴奏をお願いしステージに臨むことといたしました。

スケジュールが合わなかったり、直前に体調を崩されて当日参加できない方もおられましたが、7 月の定演以降に、新たなメンバー（富田さん(T2)）の参加、鈴木さんの B2 から B1 への異動、昨年同様に東京メンバーの中では若手にあたる、花田さん(T1)、堀さん(T2)の参加などによって、各パートのバランスがかなり良くなり、当日のステージでは各パート 4 名ずつの 16 名にての演奏をおこないました。

本番ステージは、昨年同様午前中の出演という声のコンディションを整えるうえでは少々不利な出演順ではありましたが、各メンバーの積極的な参加によって 11 月以降 3 週連続で歌いこみ練習を行った結果、まだまだ荒い部分は随所に残ってはいるものの、響きの良いホールにてかなりのびのびと各メンバーに歌っていただき、またピアノ伴奏付きの曲という事でピッチのずれも最小限に抑えることができた結果、今までの 2 回に比べてもかなり聴き映えのする演奏に仕上ったのではと感じています。

東京メンバーの練習では、8 月以降は本ステージに向けて「水のいのち」だけしかとりあげてきませんでしたが、12 月からは来年の定演に向けて「フォスター」「ドイツ歌曲」などの他の曲に取り組んでゆく予定です。

（報告者：甲和　伸樹）

「第 7 回東京男声合唱フェスティバル」2007 年 11 月 23 日（金、祝）

於浜離宮朝日ホール（主催；　東京都合唱連盟・朝日新聞社）

参加全 61 団体中 6 番目　(11 時 10 分頃から 7 分間)

参加者：(C)甲和

(T1) 関本、村田、花田、

(T2) 仮谷川、北村、経澤、枝木

(B1) 大野、藤山、奥村、堀、

(B2) 待山、服部、木戸、鈴木　　以上１6 名

演奏曲目：「わたしはカメレオン」より、

1. わたしはカメレオン、６．うみつばめ

報告：

昨年の初参加に続き、2 回目の出場となった「東京男声合唱フェスティバル」ですが、今回は、昨年の全 47 団体に対し、61 団体のエントリーとなり、午前 10:30～午後 8:40 まで延々10 時間にわたって、男声合唱だけが演奏されるという盛況ぶりでした。

今年は、来年の定演曲より、「わたしはカメレオン」の中の 2 曲を取り上げましたが、選曲を決めて練習を始めたのが、9 月の末であり、9 月 1 回・10 月 2 回・11 月 3 回の計 6 回という限られた練習回数で、10 月中は譜読みに時間を費やし、11 月になってようやく曲想を盛り込んだ練習にはいれたという、本当に綱渡り的なスケジュールをこなして、当日を迎えました。

我々は 6 番目という、かなり早めの出演順であったため、会場から地下鉄で一駅のところにある練習場を朝の 9:00 から借り、声慣らしと最後の確認を 1 時間弱行なってから会場入りしました。

通常の練習参加メンバーで、当日のスケジュールが合わず参加できない方もおられましたが、東京メンバーの中では若手に当たる、枝木さん(T2)、花田さん(T1)、堀さん(B1)の参加により平均年齢も通常に比べて少し若くなり、パートバランスの良い状態にて臨むことができました。

11 月中旬よりの急激な寒気の到来により、風邪が流行り、直前になってステージを断念された方や、ほとんど声が出ない状態でステージにのられた方など、必ずしも本来の力を十分には発揮できなかったメンバーもおられましたが、多くのメンバーは響きの良いホールにて、存分に 7 分間のステージを満喫されたのではと思います。

「わたしはカメレオン」は、昨年の「富士山」とは違い、出版されたての新曲で、メンバーの誰もが

聞いたことも見たことも無い曲を取り上げるのは、本当にかなりの冒険でしたが、みんなが非常に集中して練習に取り組んでいただいたおかげで、結果としては、この限られた時間の中で完成度が高いとは言えないものの、それなりの形にまとめあげる事ができたのではと感じています。

（甲和　伸樹）

「第６回東京男声合唱フェスティバル」2006 年 11 月 23 日（木、祝）

於浜離宮朝日ホール（主催；　東京都合唱連盟・朝日新聞社）

参加 46 団体中 30 番目　(16 時 40 分頃から 7 分間)

参加者（C）甲和

（Ｔ１）斉藤、関本、花田、村田

（Ｔ２）大野、仮谷川、北村、経澤

（Ｂ１）奥村、藤山、淵山、堀、山田

（Ｂ２）奥戸、木戸、鈴木、待山、山邊　　以上１９名

演奏した曲

「富士山」から

＊II　作品第肆

＊V　作品第貳拾壹

報告：

東京練習メンバーの東京における初めての記念すべきステージである「第６回東京男声合唱フェスティバル」への参加報告を送付致します。

２年ほど前から、東京でも練習だけでは無く、何らかの形でステージでの演奏に取り組もうという話があり、その対象として東京合唱連盟主催で、合唱連盟加盟の必要がない男声合唱の合唱祭ともいうべき「東京男声合唱フェスティバル」があげられておりました。

が・・・、一昨年・昨年は気が付いたときには、申し込み締め切りを過ぎており、今回ようやく参加出来るはこびとなりました。

来年の夏に、東京での定演をひかえているため、限られた練習回数の中において、１１月までこのステージのための練習に力を割くことについては少々の不安もありましたが、結果としてはステージという目標が明確だったために練習の密度も濃くなり、さらには今年になってのメンバーの増加もあってこのフェスティバルに出演できたことは、とても良かったと個人的には感じています。

ステージは、記録にもあるように、来年の定演曲より「富士山」の中から、「II 作品第肆」と「V 作品第貳拾壹」を取り上げました。

「富士山」については、

・聴衆に、なじみがありすぎる

・本来ならある程度以上の人数がいた方が良い（特に作品第貳拾壹）

など、少々選曲としては不利な条件ではありましたが、ステージまでの練習回数を考えた場合には、歌う人及び振る人がある程度知っているという事、及び各合唱団の持ち時間が全部で７分間という制約を勘案した上で、この選曲となりました。

当日のスケジュールは、全４８ステージ（参加４６団体＋招待１団体＋公募合唱団）が午後がらの７時間に押し込められているため、「リハーサル」-「更衣」-「ステージ」がすべて７分間というトコロテン方式のタイトなタイムスケジュールでしたので、事前に経澤宅に集合して声慣らしと最後の確認を行ってから会場入りをしました。

会場は、朝日新聞の東京本社ビルに併設された「浜離宮朝日ホール」で、大きいホールではありませんが、主として室内楽の演奏会が行われている、とても響きの良いホールです。

メンバーは、T1：４名、T2:４名、B1：５名、B2：５名の計１８名で、特にT1に関しては、B1の堀氏が精力的にメンバーを集めて下さったこともあり、良いパートバランスの編成にてステージに臨む事が出来ました。

演奏は、持ち時間７分という制約が、指揮者に若干のあせりを与えた事もあり、一部テンポが走り気味になり、各人のテンポのバラツキが一部で少々目立ったり、また歌う側も、７分という短い演奏時間にパワーを集中出来るという事もあってか各個の声が若干荒めに聞こえて来る部分がありはしたものの、７月１回、８月２回、９月１回、１０月２回、１１月２回という限られた練習回数の中で、さらにこの２曲を集中的に練習できのが１０月以降という事を考えると、まずは上出来な東京デビューだったのではと思います。

-- 以上報告 --

Ｐ.Ｓ．（主に東京メンバーの方々への連絡事項）

今日は、本当にお疲れさまでした。

今回、指揮をさせていただいた小生としましては、ステージで指揮をさせていただくのが、22年前に、大阪男声合唱団が千里中央の読売文化ホールにおいて「青春賛歌コンサート」という「寮歌祭」の合唱版に参加した際に振らせていただいた時以来という事もあり、かなりの緊張をしており、さらに日頃の運動不足による体力低下もあって、肩こりと関節痛と筋肉痛との併発というかなり情けないコンディション下であったため、歌っていただいた皆様方にとって満足のいく形でステージにて歌っていただけたか否かについては、是非とも率直なるご感想及びご指導をいただければと考えております。

（中略）

明後日以降は、来年の定演に向けて限られた練習回数の中でたくさんの曲を仕上げていかなくてはなりませんが、これからもどうぞよろしくお願いいたします。

（甲和　伸樹）